



建学の精神

「キリストの教えから人間としての生き方・在り方を学ぶ」

キリストの教えである生き方・在り方とは、隣人愛。すなわち、人を愛し育成し、喜んで自己犠牲ができること。他者の個性を認め合うことのできる人を育てます。

「民族・人種の違いを越え、互いの人権と、一人ひとりの特性を尊重する」

世界の人たちに対して教育の門戸を開き、児童・生徒たちが生活してきた地域・国の文化の違いなどを認め合うことを大切にしています。多様な背景を持つ児童・生徒たちが共に学ぶことによって国際理解が深まり、さまざまな人々と共存でき、どこにあってても自立して生活していける力が身につくことを願っています。

「体験を通し、創造性を豊かにする」

さまざまな体験は、心を豊かにし、将来の進路選択にも役立つものと期待し、海外体験旅行・教科の研修旅行・キャンプ・音楽や演劇の鑑賞など、自ら体験する機会を大切にしています。

「世界市民としての品性を身につける」

約束や時間を守り、挨拶や言葉遣い、T.P.O.をわきまえて行動できる人を育てます。どこの国の人にも失礼のないマナーを身につけた「世界市民」になるためにも、キリストの教えである四つの標語「正直・純潔・無私・敬愛」の実践ができることが大切です。

学校法人 啓明学園

〒196-0002 東京都昭島市拝島町5-11-15

TEL：042-541-1003 FAX：042-542-5441

創立

1940年(昭和15)啓明学園の創立者 三井高維は、「広い視野のもと、豊かな人間性と独自の見識を持ち、世界を心に入れた人を育てる」と学園の理念を提唱し、財団法人啓明学園を創設しました。

当時、家族を伴って海外に勤務する人たちの子女の教育は、勤務地の学校に入れる他ありませんでした。また、任地から帰国した際、日本の学校に入ろうとしたとき、子女の国語力の不足や海外の学校との教科相違のために、本来の年齢に相当する学年に編入することが難しい場合が、多々ありました。

高維は国際的視野に立って、帰国子女教育を主眼とした学校の必要性を唱え続けました。そして、1940年(昭和15)3月、私邸である東京都赤坂区台町二番地(当時)において、帰国子女教育のために〈啓明学園初等学校〉を創立したのです。最初の入学式は、教員13名、生徒8名で行なわれました。

創立にあたっては、自身がイギリスで大きな感化を受けた MRA (Moral Re-Armament：道徳再武装)活動の創始者 フランク・ブックマン博士が提唱した四つの標語「正直・純潔・無私・敬愛」を学園の標語に掲げ、独自のキリスト教教育を行ないました。



啓明学園 校章・マーク
啓明は「明けの明星」のこと。
明を啓く学園であるように名づけられました。



創立者 三井高維（1901～1979年）
「正直・純潔・無私・敬愛」を実践し、
MRA活動と帰国子女の教育に尽力しました。



創立の背景と歴史

三井高維は、1901年(明治34)三井総本家三井八郎右衛門高棟の三男として誕生しました。1924年(大正13)東京帝国大学(当時)卒業後、銀行に勤務。同校大学院での研究に専念したのち、1933年(昭和8)イギリス・オックスフォード大学に入学しました。留学中、MRA運動の創始者 ブックマン博士から大きな感化を受け、博士より洗礼を授かっています。1938年(昭和13)5年にわたるイギリス留学を終えて帰国してからは、MRA日本支部創設にかかわり、生涯MR A運動に奉仕しました。

MRA とは、1938年(昭和13)「軍備の再武装ではなく道義と精神の再武装を」提唱したブックマンによって、ロンドンで始められた活動のことをいいます。2001年(平成13)名称がMRA からIC (Initiatives of Change：イニシアティブス・オブ・チェンジ)に変更。日本でも2003年(平成16)(社)国際MRA日本協会から(社)国際IC日本協会に改称しました。スイスに本部を置き、国連の認定を受けた国際NGOとして、世界50カ国以上で平和と融和に資する活動を行なっています。

1943年(昭和18)高維の父である三井八郎右衛門高棟から、東京近郊の昭島市拝島町にある三井別邸の土地、約3万坪の高台と建物が寄贈されました。9月には中学部が拝島校舎に移り、寮教育を開始。1944年(昭和19)8月、初等学校3年生以上の児童生徒が拝島へ学童疎開したため、中学部は赤坂台町へ戻りました。終戦の年の5月、赤坂台町の校舎が空襲により焼失したため、10月の学校再開時には拝島校舎が用いられました。多摩川の清流を眼下に見下ろし、自然に恵まれた環境の中でのびのびと生活を送ることができる学び舎となっています。

1950年(昭和25)茨城キリスト教学園にもかわったアメリカ人宣教師O・D・ビクスラーが理事長に就任しましたが、1968年(昭和43)9月、アメリカ遊説中に逝去。1970年(昭和45)からは三井高維が、1979年(昭和54)高維の逝去に伴い英子夫人が、理事長に就任しています。

啓明学園では、1972年(昭和47)4月、初・中・高のすべてに国際学級を付設しました。また一年生には一年生の、二年生には二年生の生活があり、価値があると考えて、「子供は、小さな大人ではない」ととらえています。そのときにしか見えないもの、その時にしかできないことを学び、五感のすべてを使って本物を体験し、事実に基づいて考えることによって「生きる力となる学力」を育もうとしているのです。この教育方針の実現を、豊かな自然とさまざまな文化に育まれた海外からの編入生、個性豊かな仲間たちとのふれあいが支えているといえるでしょう。

啓明学園の生徒たちにとって、さまざまな国々からの帰国生・外国籍生徒とともに学ぶことは当たり前のことです。一人ひとりの考え方や表現の方法は違っているのも当たり前。だからこそ、自分とは違う価値観を受け入れることができるのでしょう。それは他者を認め、理解し、愛することを説いたキリストの教えにも合致するものです。

このオリジナリティあふれる教育方針が認められ、1972年(昭和47)11月、海外勤務者子女教育研究協力校の指定を受けています。